
高枝切りバサミに切れし魂

シー様（水嶋ヒロ + 齋藤智裕） = 十字軍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

高枝切りバサミに切られし魂

【Nコード】

N2109K

【作者名】

シー様（水嶋ヒロ+齋藤智裕） 〓 十字軍

【あらすじ】

どこからとも無く、高枝切りバサミを持ち出すデリカシーの無い男・・・

そしてBL好きのどこかにいそうな少女・・・
相反して反発しあう二人は、磁石のSとS、MとMの関係みたいな感じで、ある意味、似た者同士だった。

私は中空をきりもみ状態で3回転ほど回った後に、木の枝に引っかかった。

何とかたすかった~~~~~

けど、どうしよう・・・降りられない・・・助けを呼ばなくちゃ!!

??????

??????

声が出ない・・・

なんということだ・・・

先ほどの跳ねられたショックで声が出なくなっていた!!

「だいじょうぶか~~~~~」

「!!!!!!」

私を跳ねたダンブから、男が降りてきて助けに来きた。

男は、ダンブの荷台から高枝切りバサミを取り出して枝を切る。

そして・・・

私をキャッチしやがった!!!

うぎゃ~~~~~!!!!!!

男に触られた~~~~~!!!!!!

私は、男に触られると、鳥肌が止まらない病・・・。

いわゆる、ポイブレイカブルズ男損壊者なのだ!!

私のこの病は、男に触られている限り発生する。

長時間さわられれば、鳥肌により体は振るえ、どんどんカロリーを消費してしまい、低血糖になる。

低血糖になると、意識がもつろろし、最悪の場合は、死に至る。

私は、何とかして男から離れたかったのだけれど体が動かない。

ダンプに引かて、体のあらゆる骨がバラバラになっていたのだ。

声も出せないからどうにもならない。

鳥肌で全身が震えることで、骨がボキボキと鳴る・・・
ポイブレイカブルズその痛みと男損壊者が重なり、ついに私は意識を消失した・・・

竜馬目線

俺の名前は、坂本竜馬

「りゅうま」と人に呼ばれている。

自由奔放がトレードマークの庭師である。

今日も、いつものように、公道を時速100kで飛ばしてたら・・・

・

!!!!!!???????

何かにぶつかった!!

そのぶつかった物体は、4、5m先に飛ばされて、木の枝に引っかかった・・・

一体なんなのだろうか??

俺は、車を降りてその物体を確認した。

それは・・・

少女だった!!

俺は、迷わず人命救助を行った。

だが、少女は血まみれで、見るからに酷いありさまだった。

うわ・・・やべえよこれ、

全身の骨折れてるし。。腕とか足とかイカのように、ブラブラしている。

しかも、なんだ???

この気持ち悪いブツブツは??

鳥肌なのか・・・まさか・・・

いや、まさかだ・・・そんなはずは無い。。

俺は、そう自分に言い聞かせた。

ふと、少女と目が合った。

少女は、何かを訴えかけている。

助けて欲しいのだろう。。

そうだろう。俺は励ましの言葉を掛けつつ、救急車を呼ぼうとしたとき、

少女の息の根が止まった……

終わった……

もうだめだ。助からない。

仮に助かっても、植物人間になるかもしれない。

そうなら慰謝料、治療費半端じゃないだろうな……

逃げよう!!!

幸い誰にも見られていない。

十分に逃げられるはずだ。

俺は、このメンドクサイ少女を、道端に投げ捨て、トラックを発信させて逃げた……

だが、俺は、一つ大きな過ちを犯していた……

なんと、高枝切りバサミを事件現場に忘れてしまっていたのだ。

そして、そのことに気が付いた時には、既に手遅れだった・・・

レビン目線2

気が付くと少女はベットの上がった。

少女は、周りを見渡し、病院であることを理解する。

目の前には看護婦が、いそがしくしている。

程なくして、医者がやってきた。

「君・・・これ何本に見えるかな？」

医者は自分の指が何本か問うているようだ。

そんなことは、私にはどうだっていい。

私に一体何が起こったの？

判らない・・・

「わたしは・・・何？」

「私は誰？」

・
・
医者は、表情は険しくなり、少女に触れる・・・
少女は鳥肌が立ち始め震えはじめる。

医者は少女に事の経緯を説明した。

レビンという名前。

ハーフであるということ。

原因不明の鳥肌疾患があること。

そして・・・記憶喪失ということを説明する。

レビンには、両親がいない。

孤児として育ち20となり成人を迎えている。

そう・・・

レビンは既に大人になっている。

病院に運ばれ昏睡状態となって5年が経過しているのだ。

だがレビンは穏やかだった。

余りにも目の前に沢山の課題が積み上げられていて、その課題に向き合う気になれなかったからだ。

だけど時間は刻々と進んでいく。

リハビリはオートメーションのように強制された。

だがレビンにとってはリハビリは苦しいものではなかった。

余計な事を考えて課題へ向き合わなくてもよい分、体を動かすしているほうが、遥かに楽だったのだ。

現実逃避の為と言えば聞こえが悪いが、レビンにとっては、リハビリが救いだった。

レビンは順調にリハビリで回復していき、外で運動もできるように

なった。

レビンは、外の世界を5年ぶりに感じた・・・

懐かしい感じが漠然とする。

だが、レビンは欠けた記憶と課題が気になって仕方がない。

レビンは、不満と不安を打ち消すように、我武者羅に社会へと飛び込んでいく・・・

竜馬目線2

高枝切りバサミを忘れてしまった俺は、毎日ビクビク怖がっていた。そして・・・恐怖の日が訪れてしまった。

「警察の者で~~~~~す。」

「玄関を空けてください~~~~~」

つ、ついにバレテしまった!!

だが、問題なのは・・・

警察に捕まることよりも・・・

我が家の鬼嫁にバレテしまうことだ。

幸い嫁は、買い物に出かけている。。

今ならまだ間に合う。助かる!!

「刑事さんごめんなさ~~~~い!!」

「やったのは僕です。だから早く捕まえて檻に入れてください!!」

「妻の目の届かないところへ・・・早く!!早く!!早く!!」

と・・・こんな感じで檻に逃げたのだが、

刑務所はやっぱり良いところではなかった。

だが、鬼嫁との暮らしを比較したら、どっちもどっちというところ
で、別段大差はないと思う。

6年後、俺は出所した。

年は50歳・・・いまさら、どこに働き口があると言っただ・・・

職業はどんなのがいいか・・・

求人ペーパーなんか見ても無意味だな・・・どこも40歳以下と書
かれている・・・

だが諦める訳にはいかない。生活費を稼がなくてはならない。

慰謝料や治療費もレビンとかいうメンドクサイ女に払わないといけ
ない。

それに鬼嫁も貢がなければならぬ。

俺は、本屋にいったって、何か為になりそうな情報を探した。

情報さえあれば、人は大きく失敗しないというのが俺の持論だ。

おお！みつけた・・・なるほど、人の嫌がる仕事にチャンスがある
のか・・・

ハウスクリーニング・庭師・葬儀屋・ピンサロ どれも金持ち相
手の商売で、不景気には左右されないか・・・

俺・・・庭師だったな・・・

でも前科持ちだし、金持ち相手の商売じゃ貞操が悪くて誰もやとつてくれないしな・・・

偽名でも使うかな。ハサミ技術もあるし、人が嫌がり金持ち相手に効率の良い仕事なんてこれくらいしかないし・・・

だめだ・・・この町では同業者に顔が割れてしまっている。

ハウスクリーニングや庭師は同じ金持ちの家に行くのだから、ばったり会いそうに危ないな・・・

葬儀屋・・・人の死で金儲けか・・・ピンサロは男だから無理だし・・・

よし！！葬儀屋に決めた。

面接は・・・まあ、どうでもいい。

俺はいいところは自由奔放で当たって砕ける主義だ！！

「面接してください~~~~~いい!!」

「合格!~!!」

へ？

「いやね、ちょうど、今、忙しいところだったのよwタイミングがちょうどいいよ君」

「それになんというか、顔が・・・可哀想な顔している。最高だよ!!君の不幸顔は葬儀屋にピッタリだよ」

確かに無所と鬼嫁で苦勞をしてきたが、まさかそれが、就職に有利
だとは思ってもよらなかった。

俺はとりあえず偽名「井上竜馬」を使い、働くことにした。

作者目線（前書き）

すいません・・・やっつけ仕事感のある文章です（汗）
期待しているかもしれない人、もう作者に期待しないでください m
（ ） m

作者目録

な〜んみよう〜ほうれんそう〜

レビンは葬式場に居た。なぜかって？ そりゃあアンタ、レビンの仕事が葬式場への食事とかを配達する系だからだよ。ってな訳で竜馬とレビンは運命的にも同じ職場関連だった感じで交流が始まるんだね〜

でも竜馬は前科者だからね、偽名使っちゃってるからレビンに正体がバレル事がないんだ。だけど、竜馬にとってはレビンだって直ぐ判るよね。なったって毎月の慰謝料振り込んでるだから・・・
気まずい感じで日々の仕事をするはめになっちゃうんだけどレビンは記憶自体を忘れちゃってるから、竜馬にとっては都合が良かった。

竜馬は大人な男としてレビンに頼りにされてしまつて、有頂天になつてしまつたんだな〜 んで、つい、レビンの過去の記憶探しを手伝つて挙げる羽目になつちゃんだけど・・・

そこで明かされる真実！！（強調気味に）

実は、レビンのお母さんが竜馬の昔の浮気女で、しかもレビンが竜馬の子供であるという事が判っちゃうんだね〜

最初らへんの話で竜馬は鳥肌女について何か知っていた様な伏線していた感をかもし出していただけ、それがココに繋がっちゃうだね・・・

レビンのお母さんは不貞な浮気者という事で竜馬の家族に迷惑掛けない為に健気にも竜馬には内緒にしたんだね〜〜良い女だよ・・・

竜馬は鬼嫁と別れて不貞女と付き合うべきだったかもね〜

そういう事〜

だが、しかし！！ 竜馬はレビンに感情移入しすぎてしまうんやねw
傍から見るとイチャイチャしてる感じに見えてしまうから、竜馬の
鬼嫁に浮気していると勘ぐられてしまう。可愛そうな竜馬ちゃん・

さて、ここからは竜馬君目線にバトンを渡した方が楽しそうなので、
竜馬君目線に交代する事とする。

ええ？ 嫌？ これから死ぬの判ってて書く事なんて出来ないです
か？

しゃあない。作者が書くと致しますか！

〜シーン1カットA〜

鬼嫁、葬儀場（仕事場）に車で突っ込む。

レビン竜馬が、いちゃつく空間をターゲットに時速100kmくら
いで突っ込んだと思う。

「危ない！」と言ってレビンを付き飛ばして助ける竜馬

血が、どばーーーーー！！！！と溢れ出る竜馬

画面暗くする

（ナレーション）

「哀れ、2人の主人公・・・葬式会場の中心で愛を叫ぶ。そして、そのまま2人で仲良く棺おけ入りとなりました。葬儀屋さんも仕事の手間が省けて良かったね」

おわり

作者目線（後書き）

これを書くに当たって映画「おくりびと」を鑑賞し、以下のサイトを参考にしました。

映画「おくりびと」批判

[http://blogs.google.ne.jp/hienkouh
ou/e/6bda58396361d97dbe36a8598
5909634?st=0](http://blogs.google.ne.jp/hienkouh
ou/e/6bda58396361d97dbe36a8598
5909634?st=0)

葬儀屋という仕事について

[http://www17.ocn.ne.jp/sougiy
a/sigotoo.html](http://www17.ocn.ne.jp/sougiy
a/sigotoo.html)

葬儀屋の仕事ブログ

[http://blogs.yahoo.co.jp/sougi
yaoyaji/folder/678496.html](http://blogs.yahoo.co.jp/sougi
yaoyaji/folder/678496.html)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2109k/>

高枝切りバサミに切れし魂

2011年1月1日11時36分発行